

能 金春流「紅葉狩」(紅葉ノ舞)
金春 安明

ユネスコによる
人類の無形文化遺産「能楽」

第二十八回 納涼能

平成27年7月17日(金)
開場/午後1時 開演/午後2時
会場 国立能楽堂
主催/公益社団法人能楽協会 東京支部

能宝生流「橋弁慶」
宝生 和英

ごあいさつ

納涼能は本年第三十八回を迎えました。

これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝致しております。

シテ方五流総出演、どなたにもわかりやすい曲目、能楽師によるミニ講座等、

当支部ならではの企画となっております。

暑い時期ではございますが、能楽に親しんで頂ける良い機会かと存じます。

万障お繰り合わせの上、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

東京支部長 朝倉 俊樹

【チケット料金】(税込) **全席指定** ※各座席区分は前ページ座席表をご参照下さい。

- ◆ 正面席・・・6,000円
- ◆ 中正面席・・・4,000円
- ◆ 脇正面席・・・5,000円
- ◆ 普及席・・・3,000円

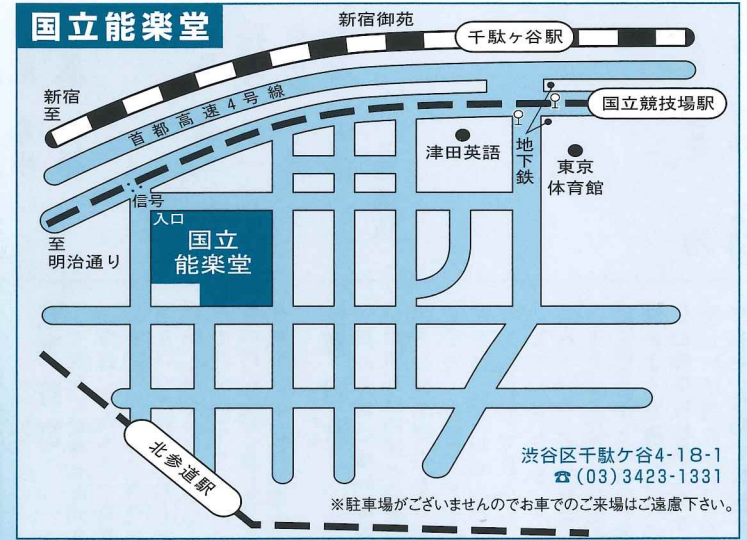
【チケット発売開始日】
4月17日(金) 午前10時より

【チケット取り扱い】 ※販売は下記に限り承ります。

- ◆ 電話
チケットスペース▶03-3234-9999 (有人対応)
※月～土 10:00～12:00/13:00～18:00
- ◆ インターネット
e+イプラス▶<http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
- ◆ 店頭
国立能楽堂▶窓口販売
e+イプラス▶ファミリーマート全国各店舗 店内 famiポート

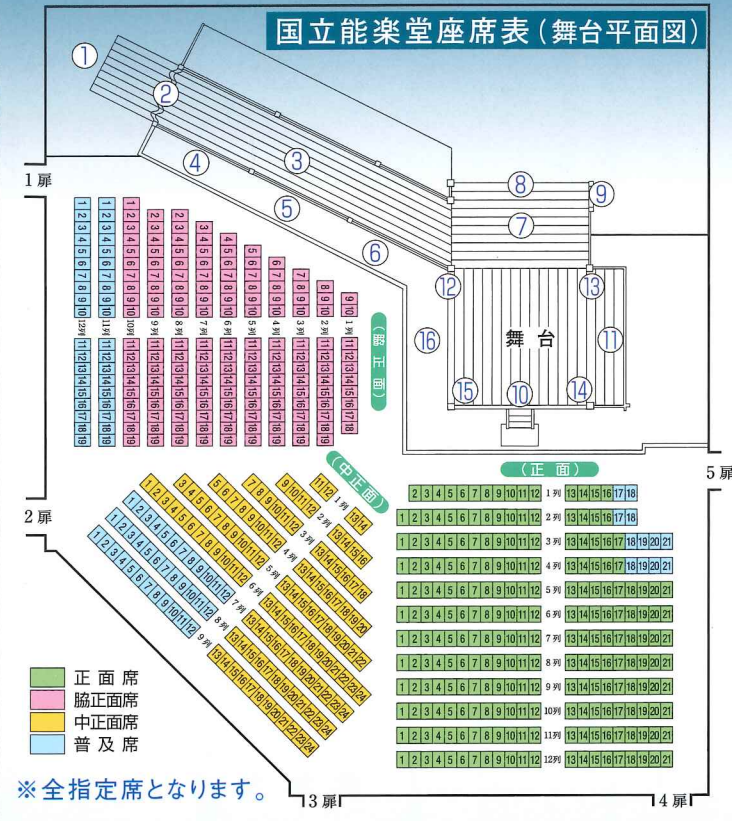
【前売チケット発売期間】 4月17日(金)～7月14日(火)
◎チケットスペースのみ7月11日(土)に終了致します。
◎前売チケットは販売期間終了前に完売することもございます。予めご了承下さい。

【当日券】 国立能楽堂ロビー受付にて 午後1時より 販売開始
◎残席がある場合のみ販売致します。



【最寄駅】 JR(中央・総武線)千駄ヶ谷駅下車……………徒歩5分
都営地下鉄(大江戸線)国立競技場駅下車……………徒歩5分
東京メトロ副都心線 北参道駅下車……………徒歩7分

◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <http://www.nohgaku.or.jp/>



舞台平面図

①鏡の間	②揚幕	③橋掛り	④三の松
⑤二の松	⑥一の松	⑦後座	⑧鏡板
⑨切戸口	⑩階	⑪地謡座	⑫シテ柱
⑬笛柱	⑭ワキ柱	⑮目付柱	⑯白州

能楽堂とは
能の専用の舞台は能舞台とよばれ、日本の代表的な劇場建築といわれています。その始まりは定かではありませんが、舞台の寸法がおおかた決まっていることにより全国どこでも能舞台でも、シテが面を着け、視界が狭い状態でも能が演じられるのです。

この能舞台は元々野外にあった為、演能は天候に左右されていました。その後、能舞台ごと大きな箱にすっぽりと納められ、劇場設備を整えた建物を能楽堂、または能楽会館などといいます。

番組

〔開演 午後二時〕

三二講座

槻宅 聡

能 (宝生流)

橋弁慶

ツレ (弁慶の従者) 水上 優
子方 (源牛若) 水上 達
シテ (武藏弁慶) 宝生 和英

大鼓 亀井 実
小鼓 観世新九郎 笛 一噌 隆之

アイ (郡の男) 山本泰太郎
アイ (〃) 山本凜太郎

後見 東川 光夫
辰巳満次郎

地謡 小倉健太郎 金森 秀祥
大友 順 前田 晴啓
野月 聡 金井 雄資
高橋 亘 藤井 雅之

狂言 (和泉流)

悪坊 シテ (悪坊) 三宅 右近

アド (僧) 三宅 右矩
小アド (茶屋) 河路 雅義

休憩 二十分

〔三時四〇分頃〕

仕舞 (金剛流)

養老 廣田 幸稔

地謡 工藤 寛
山田 純夫
松野 恭憲
元吉 正巳

仕舞 (観世流)

野宮 梅若 玄祥

地謡 鈴木 啓吾
梅若長左衛門
浅見 真州
加藤 眞悟

仕舞 (喜多流)

昭君 香川 靖嗣

地謡 大島 輝久
狩野 了一
長島 茂
内田 成信

能 (金春流)

後ツレ (〃) 本田 芳樹
後ツレ (〃) 中村 昌弘
後ツレ (鬼文) 井上 貴覚
前ツレ (鬼文) 金春 安明
後シテ (上) 金春 安明

大鼓 安福 光雄 太鼓 桜井 均
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 寺井 宏明

ワキ (平維茂) 森 常好
ワキツレ (太刀持) 森 常太郎
ワキツレ (勢子) 館田 善博
ワキツレ (〃) 殿田 謙吉
ワキツレ (〃) 高井 松男
アイ 侍 女 善竹富太郎
アイ (宋社の神) 善竹大二郎

後見 山中 一馬
櫻間 金記
政木 哲司

地謡 本田布由樹 高橋 忍
山井 綱雄 本田 光洋
金春 憲和 吉場 廣明
後藤 和也 辻井 八郎

附祝言

〔終了予定 午後五時二〇分頃〕

◎お願い

・場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。
・場内では携帯電話の電源・時計のアラーム等をお切り下さいますようお願い致します。
・出演者はやむを得ぬ事情により変更させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。

能 橋弁慶

武蔵坊弁慶は北野の天神へ丑の時詣でを思い立ち、従者に供を申し付けます。

従者は五条の橋に年の頃十二、三歳ほどの小男が人を斬つて廻っているの、思いとどまるよう弁慶に進言します。しかし弁慶は自分が聞き逃げしたと思われるのは口惜しいと五条の橋へ出かけて行きます。夜の更けた五条の橋の上では牛若が橋を踏み鳴らし、通る人を待っています。

牛若は、自分のことを女だと思つて通り過ぎようとした弁慶の長刀を蹴り上げ挑発します。弁慶は長刀を振り上げ牛若に斬りかかりますが、牛若の素早い動きに翻弄され、ついに長刀を打ち落とされてしまいます。弁慶は牛若に降参し、互いに名乗り合い、これからは主従であると堅く約束したのでした。

狂言 悪坊

大酒飲みで乱暴者の悪坊は、長刀で脅し道連れにした僧を茶屋に連れ込みます。悪坊が寝入った隙に茶屋からその正体を聞いた僧は、髪や髭を剃り長刀を取り上げ、代わりに自分の衣と傘を残して逃げ去ります。目を覚ました悪坊は自分の姿に驚きますが……

仕舞 養老

雄略天皇の御世に、美濃の国の青年が山あいの清らかな滝の水を汲んで老父母に飲ませた所、見違えるように元気になったので養老の滝と呼ばれていました。

その話を聞き訪れた臣下の前に父子が現れ、葉の水を与え立ち去ります(能の前半)。やがて、輝く光と妙なる音楽の中山神が現れ、治まる御世を讃え、清らかに流れる霊泉に重ね合わせて君臣の和と天下泰平を祝福する舞を舞います。仕舞ではこの場面を舞います。

仕舞 野宮

光源氏に愛された六条御息所の霊は、死後も失つた愛を忍び嵯峨野の野宮跡に現れ、秋の夜露を払いつつ源氏に訪われた日を懐かしみやがて妄執から浮かび出て行くかのように車に乗り火宅の門にて姿を消します。仕舞ではこの場面を舞います。

仕舞 昭君

漢の元帝に深い寵愛を得ていた昭君は胡国との和平の為に胡王の韓王将のもとに贈られました。連れていかれた時に昭君は「自分が死んだ時はこの柳も枯れるであろう」と言い残していましたが、すでに柳が枯れていました。老父母は嘆き悲しみます。その後、故事にならつて鏡に柳を映すと昭君の亡霊が現れ、鬼のような醜い自分の姿に恥じた韓王将は消え失せ、後には美しい昭君の姿だけが残るのでした。仕舞では鏡に映つた韓王将の場面を舞います。

能 紅葉狩

紅葉に彩られた信濃の国戸隠山で、酒宴を楽しむ女性たちの前に、狩に来た平維茂が現れます。酒宴に誘われた維茂はその女性たちの美しい舞を見ながら眠りにつくと、いつの間にか女性たちも姿を隠してしまいます。夢の中に末社の神が現れ、太刀を授け、身の危険を知らせます。維茂が目覚まし、待ち構えていると、先程の女性たちが、鬼の姿で現れます。格闘の末、見事退治を果たします。言わずと知れた名曲中の名曲ですが、今回は小書(特殊演出)のため、前場では美しい女性たちが相舞をして華やかさを増し、後場では女性たち全員が鬼の姿となり、一人ずつ維茂と切り組みをするという、とてもダイナミックで派手な演出が見どころとなります。